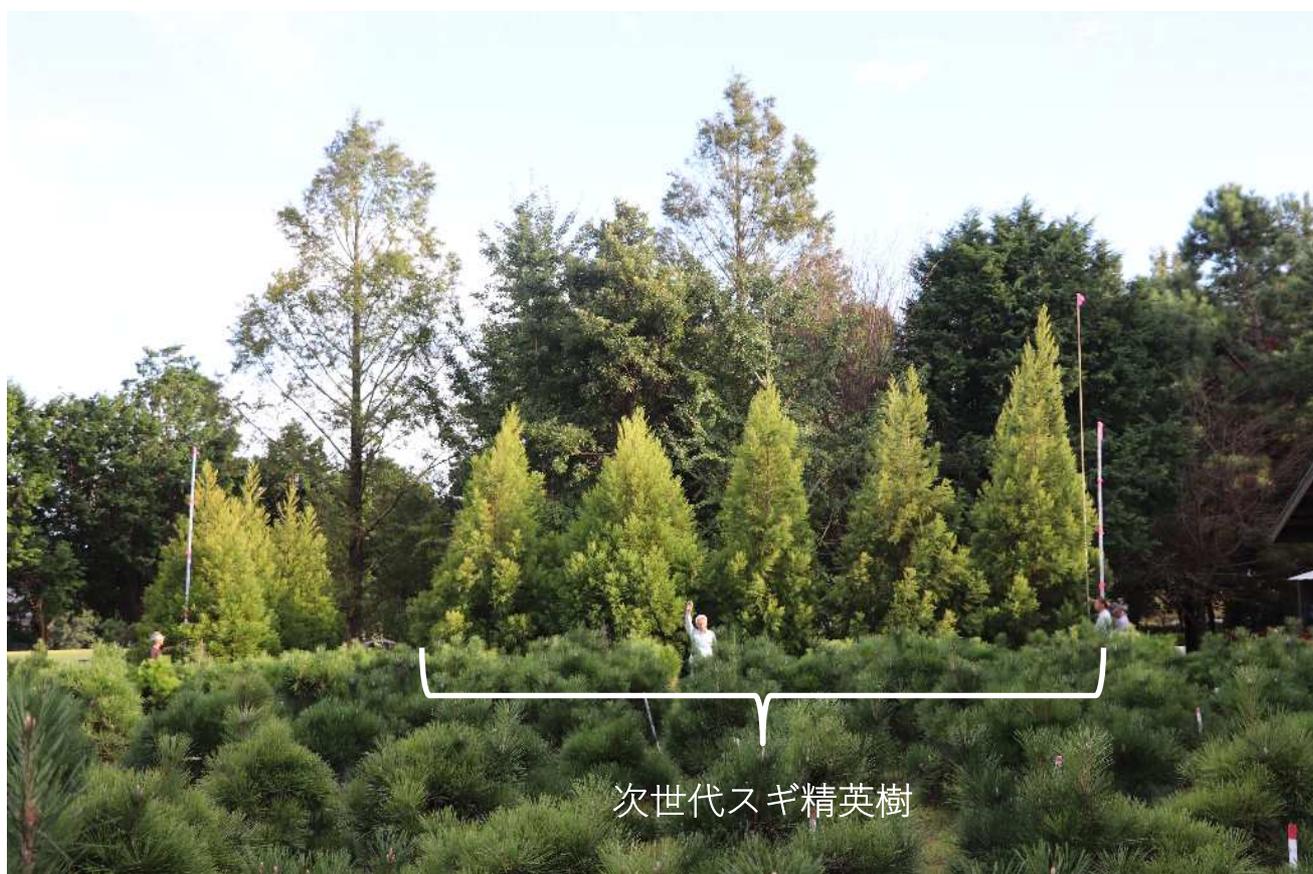


SAGA na RINGYOU.

VOL. 659

Issue 2021.03.01

佐賀の林業



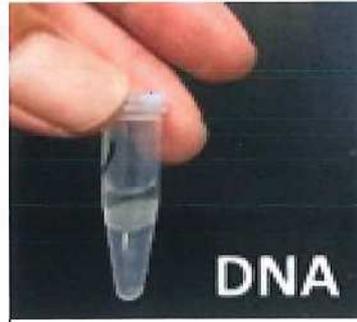
林業試験場内に設定された次世代スギ精英樹品種見本林

(2016.03.31 植栽、2020.09.25 撮影)

Introduction



強度試験



DNA分析



コンテナ苗



植栽試験地での生育状況

表紙の紹介

次世代スギ精英樹の品種見本
林（林業試験場内 5年生）

次世代スギ精英樹は、林業試験場が開発したスギの新品種です。品種開発にはDNA分析等も一部取り入れた結果、従来の品種等と比べ、成長が早いだけでなく、材の強度が高い、花粉が少ない等の優れた特性を持つことから、早期の普及を望まれていました。

このため、林業試験場では、次世代スギ精英樹の普及に向けて、現地植栽試験地や品種見本林（表紙画像）を設置する一方で、採穂園の造成等を進めた結果、令和3年2月から穂木の供給を開始することとなりました。この穂木から苗木が育成され、実際に山林に植栽されるのは令和4年の春以降になります。低コスト林業の実現に資する等、林業の振興に貢献するものと期待されます。

目次

林政だより

- 03 県営林巡視員の表彰
- 04 森川海人プロジェクト

林業ひろば

- 05 さがのき堀で県産木材利用を促進
- 06 「森林の仕事体験研修会」を開催

普及だより・林試だより

- 07 NPO法人 九千部クラブ
- 08～09 スマート林業の推進
- 10 小さな森の探検隊を開催しました
- 11 林業試験場研究フォーラム2020を開催しました

裏表紙

- 12 第6回さがの木の住まいコンクール

の表彰 県営林巡視員



県営林巡視員の坂本武彦さんに感謝状が贈呈されました

永年にわたり、県営林巡視員を努められた坂本武彦さんが令和元年度をもって退任されました。

坂本さんは、林業をはじめ、農業や造園業に従事する傍ら、佐賀市内の県有林を33年間巡視され、造園業で培った技術や知識を活かした適切できめ細やかな対応で、模範林の育成・管理に努められました。

このような永年にわたる多大な功績が認められ、令和2年4月に知事から感謝状が贈呈されました。

本来、予定されていた贈呈式は、新型コロナウイルスの感染拡大を受けて見送られ、多くの方々に坂本氏の功績を発信できる場がありませんでしたが、この場を借りて、改めて坂本さんに感謝の意を表します。

県営林は、県の基本的財産の造成を目的として、森林資源の培養、林産物の計画的・持続的な供給をはじめ、県土の保全、水資源の涵養、自然環境の保全等、森林の有する多面的機能を高度に発揮させるため、適切な森林管理を行う必要があります。

この目的を果すため、県営林巡視員のみなさまには、盗伐や火災の防止・災害報告をはじめとして、地元住民からの意見・要望の連絡調整等を行っていただいています。

台風や豪雨の後の災害発生に対して、いち早く対処することができるのも58名の巡視員のみなさまの活躍のおかげであり、まさに、佐賀県の県営林を管理する上でなくてはならない存在です。

(林業課 県営林経営・総務担当 山口 翔)



上：地元との意見調整 下：私有地との境界立会

森川海人っプロジェクト では森川海に関する 情報を発信しています



Facebook



Instagram



▲QRコード



▲森川海人っ Instagram



▲森川海人っ Facebook

佐賀県では豊かな森川海の自然環境を未来につなぐため、森川海人っプロジェクトに取り組んでいます。

本プロジェクトの取り組みをより多くの方々に周知するとともに、保全活動などの行動につなげていただくため、フェイスブックやインスタグラムなど SNS による情報発信を行っています。

本プロジェクトの SNS では、森川海のイベント情報、佐賀県の森川海に関する情報、森川海でのいろんな活

動等について、森川海人くんの目線で投稿を行っており、子どもと参加できるイベントや佐賀で自然に触れ合える場所をお探しの方など、多くの方々に役に立つ情報を発信しています。

佐賀の美しい自然やインスタ映えするスポットについても随時投稿していきたいと思っておりますので、皆様もぜひフォローしてください。

(森林整備課 森川海人っプロジェクト推進担当

大本 雅智)

県内のいろんな森川海 の活動に森川海人くん が出動します

佐賀の森川海をより豊かにするため、未来の佐賀からやってきた森川海人くんは、知事から任命されて、森川海人っプロジェクトキャプテンを務めています。

森川海人くんは、有明海の干潟と同じグレーの髪をしているほか、佐賀の森川海の自然を表現したコスチュームとして、海苔網のゴーグル、葉っぱのマスク、木のグローブ、川のスーツ、山のマント、玄海のブーツなどを全身にまとっています。また、手には汚れた水をきれいにするとされている森川海の玉を持っています。

森川海人くんの任務は、森川海人っプロジェクトの

取り組みを広げることや佐賀の豊かな森川海を守るためにパトロールすることで、県内のいろんな森川海の活動に出動しています。

皆さんの地域で森川海の保全活動や森川海のイベントを開催される時は、ぜひ森川海人くんに出動を要請してみてください。きっと皆さんのところにも森川海人くんが現れてくれると思いますよ！

森川海人くんの出動依頼は下記メールアドレスまで
shinrinseibi@pref.saga.lg.jp

(森林整備課 森川海人っプロジェクト推進担当

山浦 好孝)

みんなもやってみよう！森川海人くんポーズ！



森のポーズ



川のポーズ



海のポーズ



森川海はひとつのポーズ

佐賀県ふるさと木材利用拡大推進事業

県では県産木材の利用促進を図るため、“出口戦略”としてさまざまな施策に取り組んでおり、その一つとして「佐賀県ふるさと木材利用拡大推進事業」を実施しています。当事業では今年度から、県産木材を使用した木塀（さかのき塀）の設置に対する補助制度を新設しました。

人通りのある道沿いなどに設置されることを想定しています。

木材利用の広がりを期待

病院や保育園など、多くの人の目に触れる場所に設置してもらい、普段から木材を目にして触れる機会が増えることで、身近な生活にもっと木を取り入れよう



補助要件・補助金額

補助要件は、民間の施設（老人ホーム、保育所、公民館、病院または診療所、図書館、工場、事務所、店舗など）に設置する木塀で、合法木材および県産木材の証明ができる木材を延長1m当たり0.04㎡以上使用すること。また、優良木質建材等認証（AQ）1種の品質・性能を有する保存処理木材を使用し、建築基準法等関係法令の規定（防火・耐風など）に適合する必要があります。

補助金額は、木塀設置費用の2分の1以内（上限は1m当たり5万円かつ1箇所当たり300万円）です。

建築基準法に適合するなど条件があるものの、デザインは自由度を高く設計することが可能です。

景観や安全性に配慮した木塀

木塀は鉄やコンクリートの塀に比べて落ち着いた印象で、周囲の緑にも馴染むため景観に優れています。また、ブロック等に比べて軽量の資材であるため、倒壊などの危険性が指摘される古いブロック塀に代わり、

という機運が高まり、建物の木造・木質化にまで効果が波及することを期待しています。

また、さかのき塀は、森川海の恩恵によって生まれた製品「森川海人っプロダクト」にも登録されており、森川海の恩恵に感謝する心や環境保全に対する意識を醸成する取り組みにもつながります。

この事業が広く活用されることを期待しています。



佐賀市の山栄林業(株)では58mの木塀が設置されました
(林業課 林産担当 池田 浩章)

「森林の仕事体験研修会」を開催

はじめに

令和2年11月28日（土）に公益財団法人佐賀県森林整備担い手育成基金の主催により、「森林（もり）の仕事体験研修会」が開催されました。本研修会は、林業に興味を持つ方や新たに林業への就業を希望する方に、実際の林業の仕事を体験してもらうことで、林業への就業につなげることを目的として開催されました。

製造業や医療関係等での就業経験のある方6名（県内3名、県外3名）が参加されました。参加者の中には、先に福岡で開催された「森林の仕事ガイダンス」に参加された方もいらっしゃいました。

「体験×生の声」で具体的イメージを

今回は、まつら森林組合に御協力いただきました。

まずはじめに、まつら森林組合の会議室にて座学を行いました。県から佐賀県の林業について紹介し、その後に森林組合の進藤参事から組合の概要や現場作業について紹介していただきました。



次に、まつら森林組合が搬出間伐を行っている唐津市内の現場へ移動し、現場見学と林業機械の操作体験を行いました。現場見学では、間伐作業中の林内を散策しながら、森林のことや間伐の効果等について説明しました。昼食を挟んで午後からは、搬出間伐における伐倒からプロセッサ造材、フォワーダ運搬の実演を

見学してもらいました。その後、2班に分かれて、チェーンソーを用いた玉切り作業、プロセッサによる造材作業、フォワーダによる積込作業を体験してもらいました。操作体験等の合間には、参加者が職員や現場作業員の方に質問をされている場面もあり、実際に林業で働いている方の「生の声」に耳を傾けられていました。



「体験型研修」が就業のきっかけに

本研修会の参加者にアンケートを行ったところ、6名のうち5名が「林業の仕事内容を知りたかった」ことを参加理由に挙げられていました。また、受講した結果として、1名の方が「すぐにでも林業に就職したい」と気持ちを固められ、林業への就業につなげることができました。他の5名の方も林業を選択肢の1つとして検討されるそうです。

事業者によっては、体験研修会を開催したりインターンシップの受入をしたりして、雇用に結びつけられている事例もあります。就職・求職活動をされている方は、興味のある職業・職場に関する情報を求められており、そうした方を対象に体験を通じた情報提供を行うことは、人材確保の上で有効だと考えられます。

今後も担い手の確保に向けて、取り組んでいきたいです。

（林業課 企画振興担当 福井 遼）



NPO 法人 九千部クラブ

鳥栖市を拠点とする「九千部クラブ」は、平成20年、有志による任意団体として設立されました。その後、平成26年12月に法人化され、荒廃竹林の整備や伐採した竹を使った子ども達への環境教育など、行政や地域の各団体と連携した活動をとおして、地域の環境づくり・まちづくり・人づくりの推進に取り組まれています。



近年では、鳥栖市以外の近隣市町からも依頼を受けて活動の場を広げるなど、その精力的な取組が評価され、平成30年には、地域課題解決に向けた共同事業に取り組み、地域の下支えとして活動するCSOとして「佐賀さいこう表彰」を受賞されました。

今年度は、新型コロナウイルスの影響により活動が制限される中ではありましたが、小学生等を対象にした竹林伐採体験と合わせて、竹のオモチャやミニ門松づくり、シイタケ菌打ちなどの体験会を実施し、森林と共生する心の育成に取り組まれています。



また、鳥栖市報で希望者を募り、「荒廃人工林の再生と安全作業講習会」も実施されました。この講師と

して、林業試験場普及指導課へ職員の派遣依頼があり、



東部農林事務所も微力ながらお手伝いさせていただきました。

第1回目の講習では、森林・林業の現

状と森林の見方や調査方法についてお伝えしましたが、林業初心者の方々は熱心に聞いてくださり、ベテランの方々からは「普段はあまり理論的に考えながら作業しないから、新鮮だった。」とのコメントをいただきました。今回の講習が、森林の現状



とその整備の必要性、そして、実践的に役立つ技術を伝える一助となれば幸いです。

このほか、器具の取扱等に関する安全教育、間伐実習、伐採木搬出作業講習と全4回の講習が行われ、ク



ラブ会員も含め13名の男女が参加されました。山仕事に興味がある方や所有林の手入

れのために技術や情報が欲しいという方がほとんどでしたが、このうち30~40代の2名がクラブの活動に興味を持たれ、今後も参加していただけることになりました。クラブ代表の秋山氏は、今回の取組の効果を実感され、来年度以降の継続についても検討されているようです。我々、農林事務所普及職員も、クラブの若齢化と活動の輪が広がることを期待し、今後も支援していきたいと思ひます。

【東部農林事務所 林務課 真井 奈月】



令和2年11月30日～12月1日（2日間）、林業労働災害シミュレーターVR体験研修会を開催しました。当研修は、スマート林業の推進や林業における最先端の技術に触れる機会を提供することを目的に、佐賀中部農林事務所の普及担当が企画を提案し、佐賀中部林政協議会及び佐賀東部地域林業後継者対策協議会の研修として実現したものです。

VRとは、Virtual Reality（バーチャルリアリティ）の略語で、「仮想現実」とも言われ、現在、医療・観光・教育等の幅広い分野で活用が広がっています。

林業分野においては、今回講師としてお招きした株式会社森林環境リアライズさんが伐倒作業の安全性の向上や労働災害の防止を目的として、林業労働災害を仮想の林内空間で疑似体験できるVR体験シミュレーターをいち早く開発されており、林野庁においてもスマート林業を支える技術として普及されています。

【1日の研修内容】 ※2日間開催

- ① 林業労働安全指導に関する講義（1.5時間）
- ② VR体験研修（参加者全員）



【講師】

株式会社森林環境リアライズ
専務取締役 石山 浩一氏

【林業労働安全指導に関する講義】

VR体験に併せて、講師から林業労働安全指導の講義を行っていただきました。講義では、全国の災害事例の生々しい写真と被災者の体験談を基に「林業は危険と隣り合わせの仕事であり、自分の身を守るために性能の高い安全衛生器具を装着することの必要性」について、特に熱心にご指導いただきました。

林業における休業4日以上死傷災害は、約6割が伐倒（チェーンソー）作業に起因し、更にその被災部位は膝下から足指までが約6割を占めています。つまり、保護ズボンと専用の防護靴を装着するだけでかなりの労働災害を防止することが出来る事になります。「労働災害が減れば、事業体においては労災保険料の低減に繋がる。必要経費の削減は現場従事者の給料アップに繋がる。だから、皆さんが給料アップしたいなら労働災害を発生させないようにすることですよ」とお話されました。防護ズボンは国際基準 Class1、地下足袋を止めて高価でも性能のよい防護靴を装着する事について、具体的にアドバイスをされました。受講者からは、購入に前向きな意見や質問も多く、今回の研修が、受講者の安全意識に向上に繋がったと感じました。

～VR 体験で労働災害の未然防止～



【VR 体験研修】

講義風景

VR 体験では、一人ずつ専用ゴーグルを装着してもらい、センサー体型コントローラーを使って、8つある事例の中から「造材作業中のチェーンソーのキックバック」や「かかり木処理作業中の元玉切り」など3事例を疑似体験してもらいました。その後、簡易版のゴーグルで残りの5事例についても視聴してもらいました。

VR 体験では、あたかも林内にいるような感覚で災害事例を疑似体験・体感するため、体験中に驚きで大きな声が出たり、伐倒木を避けようとして転びそうになったり、しゃがんだりする方が多くいました。ゲーム世代の若い方は、VR 画面に違和感がなく体験もスムーズで、最新技術に対する興味の方が大きいようでした。ベテラン世代の方は「ドキドキして心臓が悪い」といった意見があり、気持ちへのインパクトが大きい体験となっていました。

今回は、屋内にいながら現場での実習感覚で記録や心に残る災害体験ができ、大変良い機会になったと思います。コロナ禍で開催することに不安もありましたが、参加者から「講義内容が良かった」「VR 体験が面白かった」等の意見があり、嬉しく思いました。今回の研修が、各事業体における安全管理等の研修企画や、現場作業における災害の未然防止に繋がることを期待しています。

(佐賀中部農林事務所 林務課 近藤 真奈美)



仮想現実で伐倒作業する様子



仮想現実で伐倒木を確認する様子



チェーンソー体型コントローラー



取扱方法の説明中の様子



小さな森の探検隊を開催しました

去る11月8日に、林業試験場で「小さな森の探検隊」が開催されました。小さな森の探検隊は、林業試験場1日体験イベントとして、近年では毎年5月に開催していましたが、今年は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、11月に延期したうえ、イベント内容を一部短縮しての開催となりました。当日は天気にも恵まれ、子ども、大人合わせて89名の参加がありました。

主なイベント内容は、「森のビンゴゲーム」と「木の実の工作」の二つです。「森のビンゴゲーム」では、林業試験場内の平成子ども記念の森に設定された遊歩道を歩きながら行いました。参加者の皆さんは、真新しい落ち葉をさくさくと踏みしめながら、幹の模様がきれいな木や、葉っぱからゴマや綿あめ（のような？）の香りがする木など、普段とは一味違った発見を楽しんでいました。また、ちょうどドングリや松ぼっくりがたくさん落ちる時期だったこともあり、多くの子どもたち（大人も？）が木の实拾いに夢中になっていました。

「木の実の工作」では、平成子ども記念の森の木々に実った木の实を使って、簡単な工作を行いました。この森にはおよそ350種類の樹木が植えられており、その中にはドングリや松ぼっくり等の木の实をつけるものがたくさんあります。その木の实をふんだんに使って工作をしたのですが、中でも人気だったのは、クヌギやツブラジイなどの小ささまざまなドングリを使った動物や恐竜などでした。

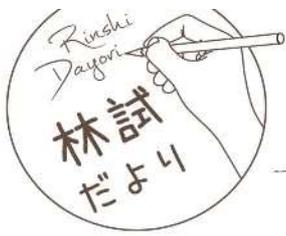
今回の参加者には、万華鏡体験セットやシイタケの完熟ホダ木をお土産として配りましたが、ちょうどシイタケ（の子実体）が出るタイミングだったため、とても好評で、後日、何人かの参加者からは、「うちにもって帰ったホダ木から、さっそくシイタケが出ました！」と連絡を頂きました。

今回の探検隊は、コロナ禍の影響を受け、時期と内容を大幅に変更しての開催となりましたが、紅葉やドングリ拾いなど、秋ならではの楽しみ方ができたのではないかと思います。イベント終了後に行ったアンケートでも、「来年も秋に開催してほしい」といった声も多かったことから、来年度も秋に開催することを検討したいと思います。

(林業試験場 普及指導課 宮崎 潤二)



木の实の工作



林業試験場研究フォーラム 2020 を開催しました

令和2年（2020年）12月23日に、林業試験場等において、次世代スギ精英樹をテーマに県内の森林・林業関係者を参集し「林業試験場研究フォーラム 2020」を開催しました。次世代スギ精英樹とは、成長が早い、強度が高い、花粉が少ない等の特性を持つ品種として半世紀の歳月をかけ佐賀県が開発し、この春から穂木の供給が開始されるものです。

午前中は唐津市七山にある次世代スギ精英樹の造林試験地に参加者を案内し、樹高や樹形等について現在普及している精英樹との違いを確認しました。

午後からは林業試験場の講堂にて報告会を実施しました。

まず、研究開発担当 江島特別研究員より次世代スギ精英樹の開発過程、DNA 情報による品種群の整理、環境効果の見える化、成長予測モデル、木材強度特性等について説明しました。次に、普及指導課 山口課長より次世代スギ精英樹を活用した施業モデルや収支予想等について説明しました。最後に、普及指導課 宮崎係長より穂木供給予定品種、採穂園の造成、採穂台木の管理状況、穂木の供給見込み等について説明しました。特に施業モデルや収支予想等については収益に直結することから、参加者の関心が高かったようです。

その後、場内視察として次世代スギ精英樹のコンテナ苗育成状況や採穂園の造成状況等をご覧いただきました。参加者は、特にガラス温室でのコンテナ苗の育苗技術や検定林から採取した次世代スギ精英樹の樹幹解析（円盤）等に関心を持たれていたようです。

出席者からは、「学術的なことから実用的な内容まで発表があり大変参考になった」、「実用化に向けたイメージができた」といった声が聞かれました。

苗木生産者や林業関係者の皆様と連携しながら次世代スギ精英樹を用いた新しい林業をスタートし、佐賀県の森林づくりに貢献できるよう、施業モデルの開発、台木の育成、苗木の生産技術の確立等に引き続き取り組みます。



（林業試験場 研究開発担当 夏井 雄一朗）



第6回 さがの木の住まいコンクール

県では、県産木材の需要拡大のため、県産木材をふんだんに使用し、「木の心地よさ」や「かつよさ」をアピールできる魅力的なデザインの
新築住宅・木質化空間を募集し、第6回さがの木の住まいコンクールを開催しました。
この度、審査会を経て、受賞者が決定しましたので、お知らせします。

<新築住宅部門>



最優秀賞

〔佐賀県知事賞〕

株式会社坂井建設

(佐賀市大和町東山田 2795)



優秀賞

さがの木の住まいコンクール
審査委員長賞
株式会社小淵建設(神崎市)



入賞

サガテレビ賞

有限会社江口建設(佐賀市)



佐賀新聞社賞

株式会社岩忠建設(西松浦郡)



<木質化部門>



最優秀賞

〔佐賀県知事賞〕

合名会社井上製材所

(神埼郡吉野ヶ里町田手 1502)



優秀賞

(一社)佐賀県木材協会会長賞
有限会社江口建設(佐賀市)



入賞

サガテレビ賞
古川建築株式会社
(佐賀市)



佐賀新聞社賞
株式会社フレックス唐津
(唐津市)



Follow us!



「みんなで育てようさがの森林」
Facebook公式ページはこちら!
気になる方は「いいね!」しよう
<http://www.facebook.com/saganomori>



さがのよか木を応援する「よかウッド」
YOKAWOOD
http://www.yokawood.jp



編集・発行

令和3年3月1日発行
〒840-0212 佐賀市大和町大字池上
3408 番地
佐賀県林業試験場・佐賀県林業改良普及協会
TEL: 0952-62-0054

※この冊子は、
「佐賀の森の木になる紙」
を使用しています。

